

連載「つたえること・つたわるもの」№178
気になる日本語——同音異義語、異字同訓
をダジャレ、謎かけであそぶ。

出版ジャーナリスト 原山建郎

令和6年度文教大学オープン・ユニバーシティ
(社会人向け教養講座)は、遠藤周作関連では、
①遠藤周作の「病い」と「神さま」その1——
『新約聖書』から「慰めの物語」を読む。②遠藤
周作の「病い」と「神さま」その2——母、妻、
父、兄、息子の「物語」を読む、の2講座。日本
語関連では、①たのしい日本語——おもしろく
ことば その1 同訓異字、しりとり、回文(逆さ
ことば)であそぶ。②たのしい日本語——おもしろ
くことば その2 オノマトペ、いろは歌留
多、落語の謎かけ、サラリーマン川柳をたのし
む、の2講座をそれぞれ予定している。そこで、
いま調査・作成中の関連資料の中から、この5月
に開講する「たのしい日本語——おもしろくこと
ば」の内容をいくつか要約しながら紹介しよう。

今回のテーマは、「同音異義語、異字同訓をダジ
ャレ、謎かけで遊ぶ」である。

まず「同音異義語」とは、(日本語の「音読
み」)発音が同じで意味(語意)の異なる語をい
う。たとえば、【いどう：移動、異同、異動、医道
など】、【かき：柿、下記、夏季、牡蠣、花卉】、
【いし：医師、意思、遺志】、【きかん：期間、機
関、器官、気管、帰還、季刊など】、【しんせい：
申請、新生、親政、神聖、心性、新星など】、【せ
いか：製菓、成果、盛夏、生家、聖歌、生花、聖
火など】がある。ちなみに、日本語の「音読み」
には、伝えられた年代によって呉音、漢音、唐音
があり、たとえば、同じ漢字の「明」を「ミョウ
(呉音)」「メイ(漢音)」「ミン(唐音)」のよう
に、異なる発音があった。

また「同訓異字」は、同じ訓読みでも漢字が異
なる語のことで、たとえば、【あう：合う・会う・
逢う・遭う・遇う】、【おさめる：治める・主め
る・統める・経める・収める・納める・修める】、
【みる：見る・観る・看る・視る・覧る・診る】、

【かたい：固い・堅い・硬い・剛い・難い】など
がある。

講演や会話など耳で聞く、同じ発音の日本語
(話しことば)は、相手の話の文脈(意味内容の
つながりぐあい)で判断するため、ときに「全く
違う意味に受けとられるリスク」がある。

一方、目で見ると本や手紙の文章を読む場合に
は、書かれた漢字(表意文字)で「その意味を正
確に理解できる強み」がある。

ところで、国立国語研究所のWebサイトにあつ
た【「異字同訓」の漢字の用法】(1972年6月28
日 国語審議会漢字部会)の説明には、【1この表
は、同音で意味の近い語が、漢字で書かれる場
合、その慣用上の使い分けの大体を、用例で示し
たものである。／2その意味を表すのに、二つ以
上の漢字のどちらを使うかが一定せず、どちらを
用いてもよい場合がある。又、一方の漢字が広く
一般的に用いられるのに対して、他方の漢字はあ
る限られた範囲にしか使われないものもある。／
3その意味を表すのに、適切な漢字のない場合、
又は漢字で書くことが適切でない場合がある。こ
のときは、当然仮名で書くことになる。】と説明さ
れており、【とく・とける：解く・解ける——結
び目を解く。包囲を解く。問題を解く。会長の任
を解かれる。ひもが解ける。雪解け。疑いが解け
る。／溶く・溶ける——絵の具を溶く。砂糖が水に
溶ける。地域社会に溶け込む。】のような用例が示
されている。

ちなみに、「とく」の異字同訓には、これらの用
例のほか「道理を説く」「長い髪を梳く」もあ
る。もとは(話しことば)であった「やまとこと
ば」の発音を、漢字の字源(文字の形や意味の起
原)に沿う形で仮借(※同じ音を表す漢字を借り
てあてたもの)した、日本語の「訓読(漢字に国
語をあてて読むこと)」という想像力+創造力の素
晴らしさが実感できる。ここで、☆「異字同訓」
の漢字の用法(国語審議会漢字部会、1972年)
と、■『字訓』の古語、漢字の成立(白川静
著、平凡社、2000年新装版第二刷)を比較しなが

ら、気になる日本語——異字（漢字）同訓（やまとことば）をさがしてみよう。

たとえば、AとBが接近する・AにBがフィットする・AはBに適している・AがBに出くわす、などを表す「あう」を、☆「異字同訓」の用例、■古語・同訓の漢字の原意と成立ちから見てみよう。なお、漢字の◆(さい)は、コラムでは表示できないので、近似したアルファベットをカッコ内に示した。

☆あう：合う——計算が合う。目が合う。服が体に合う。好みに合う。割に合わない仕事。駅で落ち合う。／会う——客と会う時刻。人に会いに行く。／遭う——災難に遭う。にわか雨に遭う。

■あふ [合・会(會)・逢・遇・媾・鬪(鬪)] 両者が当たり合う関係をいう語であるから、出会いから戦いまで、すべての関係が含まれ、語意の領域がすこぶる広い語である。／合(ごう)は祝詞(のりと)を収める器の◆(さい※英語の「D」を右に90度回転した字形)に蓋をする形。合意を意味する字である。／会(かい)はもと會に作り、蓋のある食器の形。下部は甗(こしき)の形。蓋のある鼎(かなえ※三本足の器)をいう。会合の字に、会を用いるのは仮借(※同じ音の別の意味の字を借りてあてたもの)である。／逢(ほう)は夆(ほう)声。夆は峰の木に神が降りてくる形。そのような神異のものに逢うことを逢という。／遇(ぐう)は禺(ぐ)声。期せずして相逢うことを遇(※遭遇)という。／媾(※省略)／鬪(とう)の初文(※その漢字が生まれた当初の形)は鬥(とう)。左手に盾、右手に斧をもち格闘する形。ただ相逢うだけではなく、武器を執って決闘することをいう字である。

また、藤井聡太八冠(九段)は将棋を「指(さ)す」、仲邑菫(なかむらすみれ)新女流棋聖は碁(囲碁)を「打(う)つ」という。「さす」「うつ」の異字同訓も、☆「異字同訓」の用例、■古語・同訓の漢字の原意と成立ちから見て

みよう。

☆さす：差す——腰に刀を差す。かさを差す。差しつ差されつ。行司の差し違え。抜き差しならぬ。差し支え。差し出す。／指す——目的地を指して進む。名指しをする。指し示す。／刺す——人を刺す。布を刺す。本塁で刺される。とげが刺さる。

■さす [刺・挿(挿)] 先端の鋭く尖ったもので、ものを突き刺すことをいう。「指(さ)す」と同根の語。「刺す」は人を刺殺するとき用いる。／刺(し)は束(し)声。束は先端の鋭い木を、地に刺して立てる形。これで刺殺することをいう。／挿(そう)はもと挿に作り、甗(そう)声。甗はすき(※土を起す農具)。土中にものを植え込むことをいう。／国語の「さす」には、「さし寄る」「さし向かふ」のような軽い接頭辞のほか、突き刺す、髪に挿す、木を挿し立てる、竿を操りさす、小網(さで)さし渡す、地を占めてさす(中略)など、その用義の多い語である。これらの字に対応するものとして刺・挿・射・差・指などの字がある。他の同訓異字の例と同じように、「さす」という語がそれぞれの字に適当に配されて、そのことによってその語義が具体化され、明確化されてゆくということもあったであろう。

☆うつ：打つ——くぎを打つ。碁を打つ。電報を打つ。心を打つ話。打ち消す。／討つ——賊を討つ。義士の討ち入り。相手を討ち取る。／撃つ——鉄砲を撃つ。いのししを猟銃で撃つ。

■うつ [打・撃(撃)] ある一点を勢いよくうつこと。手でうち、あるいは道具でたたくことをいう。手の動作であるから、その作用に関して接頭語として用いることもあり、意味領域の広い語である。類義語「たたく」はその擬声語を動詞形としたもの。連続してものを「うつ」意。「うつ」はうちつける意で、うちつけるように投げることを「撃つ」という。／打(だ)は釘をうつ字。丁(てい)は打・釘の象形。／撃(げき)は囊(ふくろ)の中にあるものを外からたたく意の字。たとえば穀を中に入れて、

脱穀するような動作をいう。連続して強く打つことであるから、戦闘行為をいう字に用い、打撃のように連用する。

とここまでは、少々お堅いトピック（話題）をとり上げたが、ここからはぐっとくだけで、インターネット検索で見つけた「同音異義語」と「異字同訓」の〈ことばあそび〉をたのしんでみよう。

▲同音異義語・異字同訓で「ダジャレあそび」

電話にで（出）んわ。／校長先生絶好調。／会場を凍らすコーラス。／赤はあかん、白にしろっ！／中年やちゆうねん／トイレに行っといれ。／ねこ（猫）がねこ（寝込）む。／ブドウ（葡萄）一粒（ひとつぶ）どう？／俺オレンジ、君キミドリ。／下駄がに（逃）げた。／貴社の記者が汽車で帰社した。／教会に行くのは今日（きょう）かい？／飛行機の副操縦士は服装重視。／海老の血液型はAB型／アルミ缶の上にあるみかん。

▲同音異義語・異字同訓を「書き分ける」

かつお節から出るのは「出汁（だし）」・お祭りに出るのは「山車」／洋服で大切なのは「生地（きじ）」・新聞で大切なのは「記事」／釧路が美しいのは「湿原（しつげん）」・政治家が見苦しいのは「失言」／奈良の特産品は「柿（かき）」・広島の特産品は「牡蠣」／産婦人科といえば「安産（あんざん）」・算盤といえば「暗算」／ピエロといえば赤い「鼻（はな）」・山茶花といえば赤い「花」／疲労は「寝（ね）る」とよくなる・アイデアは「練（ね）る」とよくなる。／このカッターは、はさみに勝（か）った。よかった一。だから買（か）った。

◎一ロメモ 「出汁（だし）」は素材の煮出（に・だし）汁（じる）に由来し、「山車（だし）」は屋台の鉾から竹籠の編み残しが「垂れた」部分を「出（だ）し」と呼んだのが始まりだという。

▲同音異義語・異字同訓で「謎かけ」

「牛井」とかけて「海」ととく。その心はどちらも「なみ（並み・波）」があります。／「パレンタイン」とかけて「重量挙げ」ととく。その心はどちらも「もて（持て）ない人」はダメです。／「スープ」とかけて「いい夢」ととく。その心はどちらも「さめて（冷めて・覚めて）ほしく」ありません。／「寿司」とかけて「すごろく」ととく。その心はどちらも「最後はあがり（お茶・ゴール）」でしょう。／「コシヒカリ」とかけて「マエストロ（名指揮者）」ととく。その心はどちらも「たくと（炊くと・タクト）光ります」／「マラソン」とかけて「歌」ととく。その心はどちらも「ばんそう（伴走・伴奏）」もあれば、「かんそう（完走・間奏）」もあります。／「ボクシング」とかけて「公営ギャンブル」ととく。その心はどちらも「手は出しても足が出てはいけません」／「陸上部」とかけて「引越し屋さん」ととく。その心はどちらも「トラックで走り回ります」／「カラオケ」とかけて「図書館」ととく。その心はどちらも「どんだんかし（歌詞・貸し）出します」／「電話」とかけて「ボタン」ととく。その心はどちらも「かけ違いもある」でしょう。／「茶道」とかけて「占い」ととく。その心はどちらも「せいざ（正座・星座）」が欠かせません。／「川柳」とかけて「午後五時」ととく。その心はどちらも「じゅうしちじ（十七字・十七時）」です。／「靴」とかけて「お腹（なか）」ととく。その心はどちらも「歩くと減る」でしょう。／「お金」とかけて「ハサミ」ととく。その心はどちらも「ちょきん」／「卓球」とかけて「正解」ととく。その心はどちらも「ピンポン！」

そろそろ、お後がよろしいようで！ 次回のコラムまでごきげんよう。